校長室から
（R元年度）

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校　川上　隆　No．58

令和元年１２月２３日（月）発行

ある新聞記事より

毎日小学生新聞１２／２２

きょうの紙面

列車に乗ろうよ！
寛さんの鉄道全線完乗
富士急行
8面

こどもしんぶん　3面

カラダダラケ
はなかっぱ　4・5面
みんなでスキー
炎のこども料理人　6面
ローストビーフ

みんなの目

教えて！池上さん 303

◇池上彰さん［ジャーナリスト］　1950年長野県生まれ。NHKで報道記者やニュースキャスターを務めた。2005年からフリーのジャーナリストに。名城大学教授、東京工業大学特命教授。著書に「池上彰の親子で新聞を読む！」など多数。

読解力の低下

読解力とは、文章を書いた人が言いたいことを正しく読み取るちからです。経済協力開発機構（OECD）の試験で、日本の高校生の読解力が下がったという結果が出て、教育界は大騒ぎです。読解力は、どうすればつくのか。冬休みを前に考えてみましょう。

教育界は大騒ぎ 長文を読む習慣を

PISAの調査 8位から15位に

この試験は「PISA」（学習到達度調査）といいます。なぜ「経済協力開発機構」という経済関連の国際機関が試験を実施しているのでしょうか。それは、先進国の子どもたちが、「21世紀を生き抜いていくために必要な学力」がついているかどうかを調べようとしているのです。

経済が豊かでない開発途上国は、先進国に追いつこうと教育に力を入れますが、その場合の教育とは、読み書きを教えたり、知識を丸暗記させたりするケースが多いのです。先生が一方的に授業をして、生徒たちは、先生の言っていることを覚えるというパターンです。

でも、こうした教育では、国を発展させるために十分ではありません。上から言われたことだけをやればいい、という人ばかりでは国は発展しません。そうではなく、自分の頭で考えて、積極的に行動する人が求められています。21世紀に必要な力を持った人を育てるにはどんな力を身につけていればいいか。それを世界の人たちに知ってもらおうというのがPISAの試験なのです。世界79か国・地域で15歳を対象とし、約60万人が参加しました。日本は2012年の調査では4位、15年は8位でしたが、最新の18年では15位でした。それで日本の高校生の読解力が下がったと大きな話題になっているのです。

このテストは、コンピューターを操作して答えを導き出すという手法だったため、コンピューターの扱いに慣れていなかった子が多かったために低い点数になったのではないかという見方があります。

その一方で、多くの先生が、「最近の生徒たちは読解力が落ちてきたなあ」と思うようになってきていて、それが間違いではないと裏付けられたという指摘もあります。

「読解力」は二通りある

どちらであれ、これからの日本を支える若者たちの力が衰えては一大事。読解力をつけるにはどうしたらいいか、冬休みを前に考えてみましょう。

え・藤井龍二

実は「読解力」には二通りあります。一つは、小説を読み、主人公など作中人物の心の動きや行動の理由を読み解く力です。それができれば、小説を読んで感動します。小説を読んで感動したり、怒ったり悲しんだり、笑ったり……。これができるのは、読解力があるから。この力をつけることで、豊かな人間性を育むことができるでしょう。

そして、もうひとつ。それは、説明文を読んで、文章が伝えたいことを正確に読み取る力です。今回のPISAのテストは後者に重点を置いたものでした。日本の子どもたちは、こちらの力が弱いのではないかというのが、今回の結果です。

では、それを克服するには、どうしたらいいのか。それには、長い文章をていねいに読む習慣をつけると、文章の意味を間違って受け取ることもなくなります。著者が言いたいことを正確に読み取り、それについて自分はどう考えるか。その習慣をつけていれば、あなたもきっと、もっと読解力がつくはずです。冬休みに試してみませんか。まずは書店に、あるいは図書館に行ってみましょう。

読書ノートの達成者が増えています

読書ノートの前期目標達成者は５人（Ｎｏ．５１参照）でしたが、後期（２／２０〆切）に向けての達成者が、今日時点で１４人まで増えました。内訳は、１年生が３人、２年生が５人、３年生が１人、４年生が４人、６年生が１人です。１～４年生は１００冊、５･６年生は５０冊が目標です。この冬休みから取り組んでみませんか。
自分の体験からですが、文章（本など）をじっくり読まない人は、考える力も育たないし、学力もつきませんよ。